

由緒ある「小字」名
昭和村ボランティアガイドの会
理事 堤 義樹

村内の建物や場所などには名前がある。その中でも、文化財には「長井坂城跡」「八日市古墳群」「出入の遊水池」などの名前が付けられている。最近では「関屋工業団地」「鍛屋地古墳」といった名前が新たに付けられた。これらの名前の多くは小字に由来している。

小字は、平安時代の荘園文書の中にすでにあり、田畑・山林の所有を示していた。太閤検地の頃には、小字ごとに土地の所有が記載された。

江戸時代になると、小字は、村の中の集落や土地を示す名前として使われた。明治期の町村合併後は、江戸時代の村は大字として引き継がれ、小字は村の小さな集落や耕地、山林などを示す名前として残り、今日に至っている。

昭和村には、七つの大字のもとに小字がある。川額には七十八、森下四十七、椽久保五十七、糸井七十四、貝野瀬六十七、生越五十五、赤城原四、合計で三百八十二にのぼる。

小字は、村の地域全体を網羅



昭和村小字分布図

している。その中で、今でも村の行政区や地区名として使われている小字がある。川額の藤井、宮貝戸、根岸、伏田や糸井の吹張、常木、中内出、宿、上内出、南内出などである。他にも入原や鎌沢、三ツ谷、長者久保、追分、中野、赤谷、大河原など多くの小字が、今も行政区としてのまとまりを残している。

このように、小字には何百年も続く地域としての歴史があり、神社などが造られて独自の風習が生まれ、地域としてのまとまりを持つてきている。

今でも、小字を単位とした活動や行事は多い。小字には、住んでいる人が代々つながらり、助け合ってきた歴史がある。



地域にとって大切な場所、サロンの活性化をめざして！

～第21回きずなサポーター会議を10月29日に行いました～

今年度3回目となる「きずなサポーター会議」を、人数制限や入口での手指消毒・検温など、感染症対策を講じて地域活性化センターで開催しました。

今回は、群馬ヤクルト販売(株)管理栄養士の椎名江里加さんに「免疫力を高める食事」と題した講義をしていただきました。講義では、免疫に関するクイズを織り交ぜながら、食事を摂る時に心がけたほうがいいことや、体の免疫力をアップさせる鍵が腸であること

などを教えていただきました。

また、免疫力を高めるためには、たんぱく質やビタミンA、C、Eを摂ることが大切で「カニかまやサバ缶を普段の料理にちょい足ししてみるとよい」などとアドバイスがありました。

きずなサポーターの皆さんからは「食事内容を意識してみようと思う」「ちょい足しメニューを作ってみたい」といった感想が聞かれました。



管理栄養士の椎名さんによる講義



ヤクルト腸体操に取り組むサポーターの皆さん



問合せ 地域包括支援センター ☎24-5111(内線135)